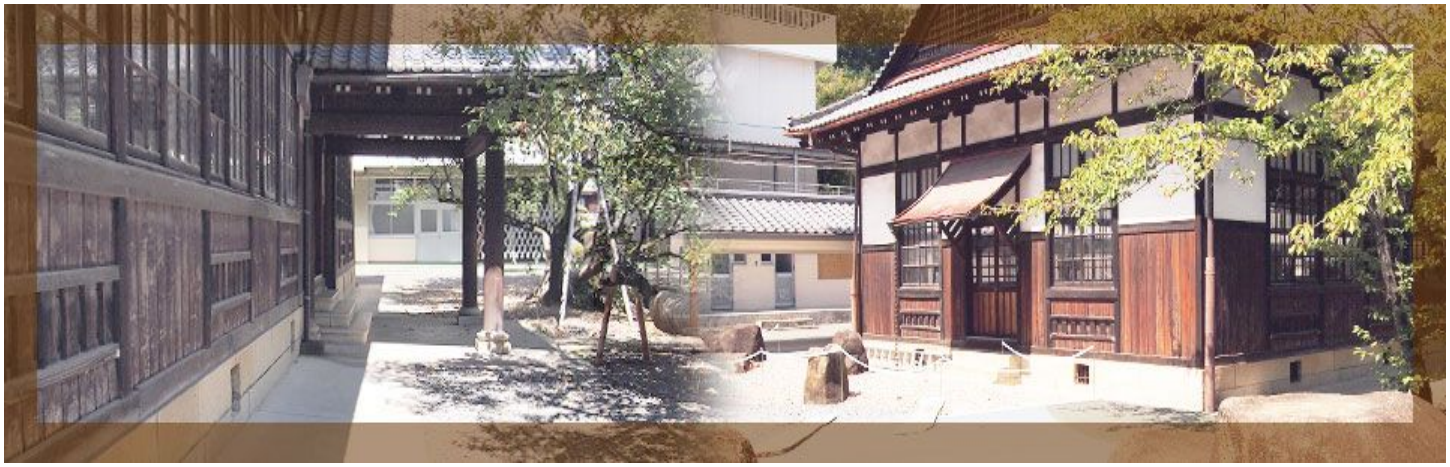
創立１１０周年記念式典
（倉敷市民会館）平成２８年

天城の旧跡

　天城高校創立110周年記念式典に参加しました。
倉敷伊東市長の祝辞に「日本の歴史を大きく左右する歴史の一つに源平合戦が有りますが、皆様の学ぶ天城高校はまさに天下分かれ目の戦いの行われた場所です。あなた達が卒業し社会で活躍した時に、どうか自分は歴史ある地で勉強したことを是非誇りをもって語ってほしい」と述べました。
そこで謡曲にも登場する藤戸についてまとめてみました。



天城高校への道は今も武家屋敷の名残を留めています。

藤戸饅頭本店で映画の
ロケに使われました。

天城教会
県重要文化財

源平合戦

1180年4月	以仁王の挙兵	
1180年8月１７日	石橋山の戦い	源頼朝挙兵
1180年10月　６日	富士川の戦い	頼朝が平氏の追討軍に勝利
1183年5月１１日	倶利伽羅峠の戦い	信濃にて義仲挙兵
1183年10月　１日	水島の戦い	義仲軍屋島を目指すも敗北
1184年1月	宇治川の戦い	義仲謀反のため頼朝の命で義経上洛
1184年2月　７日	一の谷の戦い	義経一の谷の断崖を馬で駆け降り奇襲
1184年12月７日	藤戸の戦い	源範頼と平幸盛の戦い
1185年2月１８日	屋島の戦い	範頼に加勢するため義経出兵、那須与一
1185年3月２４日	壇ノ浦の戦い	安徳天皇海に没する

春の湊の行く末や　春の湊の行く末や
藤戸の渡りなるらん

藤戸寺
高野山真言宗

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり。
娑羅（しやら）雙樹の花の色、盛者（じやうしや）必衰のことはりをあらはす。
おごれる人も久しからず、只春の夜（よ）の夢のごとし。
猛（たけ）き者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ

藤戸寺境内の沙羅双樹の木

藤戸寺にある盛綱が平家陣営に渡っている絵画と琵琶

盛綱像と盛綱、藤戸合戦戦没者、浦の漁民のお位牌

佐々木三郎盛綱騎馬にて藤戸の海を乗り渡る図
（岡山県立図書館所蔵）

乗り出し岩

鞭木跡

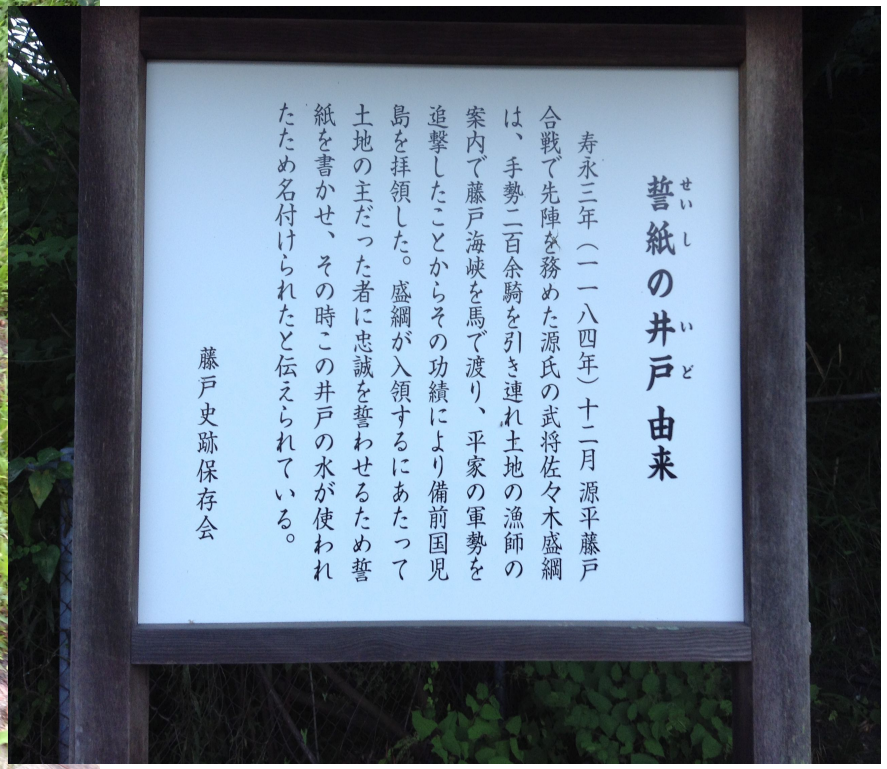
醍醐寺三宝院庭園の
主人石
国の特別名勝、史跡

浮洲岩跡

西明院（真言宗善通寺派）内に先陣庵
先陣庵に種松山山頂にあった
西明院が移築された

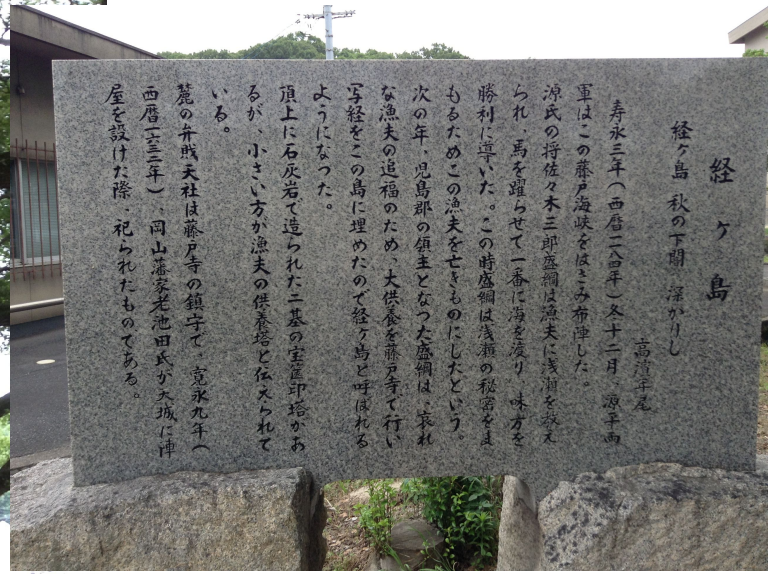
西明院から乗り出し岩方面を臨む

篝（かがり）地蔵
平家がかがり火を焚いた平家本陣跡


誓紙の井戸由来
寿永三年（一一八四年）十二月 源平藤戸
合戦で先陣を務めた源氏の武将佐々木盛綱
は、手勢二百余騎を引き連れ土地の漁師の
案内で藤戸海峡を馬で渡り、平家の軍勢を
追撃したことからその功績により備前国児
島を拝領した。盛綱が入領するにあたって
土地の主だった者に忠誠を誓わせるため誓
紙を書かせ、その時この井戸の水が使われ
たため名付けられたと伝えられている。
藤戸史跡保存会

誓紙の井戸

笹無山
人の親の心は闇にあらねども　子思う道に迷いぬるかな



昔は海峡沖の小島でしたが、今は天城小学校に隣接しています。
頂上に経塚と石塔姿（魚塚）がある。

蘇良井戸
この井戸の背後にある高坪山一帯に布陣した源氏の軍が
この井戸を利用したと言われている

第3種郵便物認可

倉敷の地元住民有志創作劇

藤戸合戦〝真実〟知って

現在の倉敷市藤戸・粒江地区を舞台に繰り広げられた源平藤戸合戦（1184年）を語り継ごうと、地元有志が市内各地で上演している創作劇「『藤戸の浦』ものがたり」が12日、新潟県新発田市で披露される。同市は合戦で活躍した源氏の武将佐々木盛綱ゆかりの地。出演者たちは「藤戸に伝わる歴史の物語を伝え、交流を深めたい」と通しげいこを重ねるなど、入念に準備を進めている。

新発田市での公演に向け、けいこを重ねる劇団「絆」のメンバー

盛綱ゆかり 新潟で12日披露

藤戸地区の「盛綱橋」に置かれた佐々木盛綱の銅像

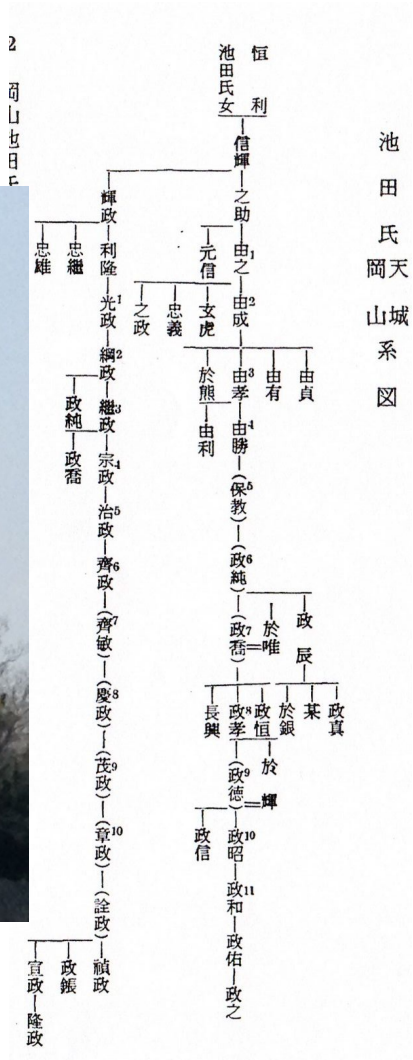
「われこそは佐々木盛綱なり」「海は浅いぞ、盛綱に続けー！」。7月31日夜。倉敷市加須山のけいこ場では、本番さながらの熱演が繰り広げられていた。白馬にまたがって深いあぐねる中、地元の漁師から両岸を結ぶ浅瀬の存在を聞き出した盛綱が、馬で海峡を渡って奇襲。源氏を勝利へと導いた。

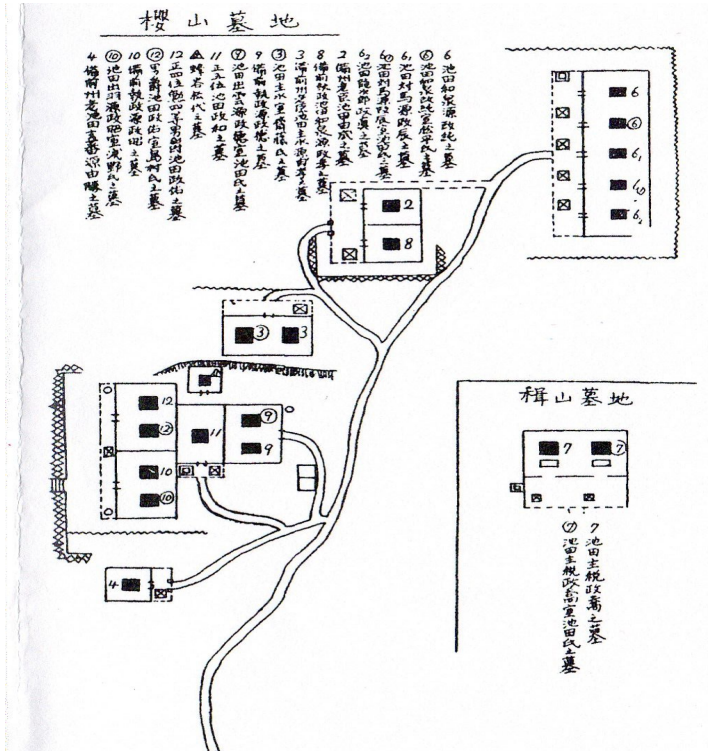
その戦功もあって、盛綱の顕彰と、盛綱のルーツを求めて、同市で盛綱の顕彰に取り組む市民有志が結成したのが、現在の新発田市での公演をこなしてきた。

新発田市は、同市で盛綱は「盛綱は新発田市にも勝戸神社を建立して漁師を供養したと聞く。合戦を通して、人の生命の重さに気付いた盛綱の心を共感しきっかけ。保存振興会との交流が生まれ、昨年には同会メンバーがはずの海峡を渡り、平家軍へと迫る盛綱、その勇姿にあわてる平家の武者たち。藤戸合戦のクライマックス！

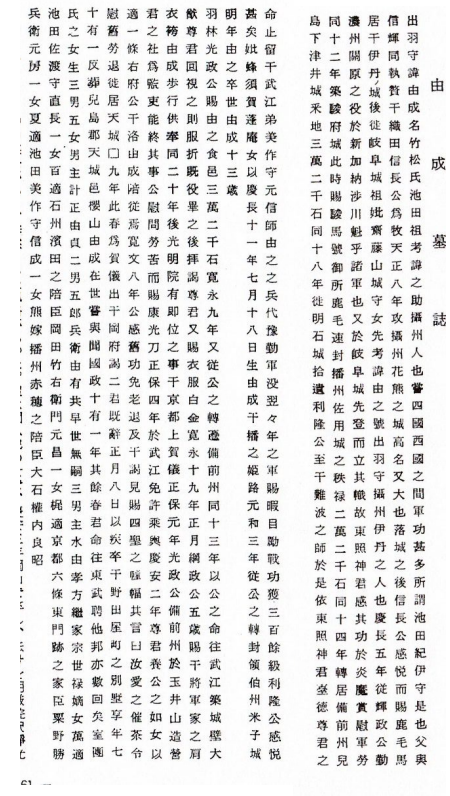
藤戸合戦とは、かつて本土と児島半島を隔てる海峡だった地区一帯で源平両軍が激突した戦い。守りを固める平家軍に対し、水軍を持たない源氏軍が攻め興会」を設立。合戦の舞台化に取り組み、翌年12月に初公演を実現させた。15年からは、出演者ら約20人が「劇団『絆』」を旗揚げし、自らが犯した罪の重さに涙する場面が盛り込まれており、盛綱を演じる三宅俊也さん（60）＝同市連島＝は「盛綱は新発田市の母親の嘆きを目の当たりに

信輝の子供が小さかったため、弟輝政の子供が岡山城主となる。天城池田が本家筋になります。





天城池田2代目
池田由成の墓



由成墓誌

出羽守諱由成名竹松氏池田祖考諱之助播州人也嘗四國西國之間軍功甚多所謂池田紀伊守是也父與信輝同執贄干織田信長公爲牧天正八年攻播州花熊之城高名又大也落城之後信長公感悦而賜鹿毛馬居干伊丹之城後従岐阜城祖批齋藤山城守女先考諱由之號出羽守播州伊丹之人也慶長五年従輝政公勤濃州關原之役於新加納渉川魁乎諸軍也又於岐阜城先登而立其職故東照神君感其功於炎慶賞賜軍勞同十二年築謁府城此時賜謁馬號御所鹿毛連封播州佐用城之秩禄二萬二千石同十四年轉居備前州兒島下津井城采地三萬二千石同十八年従明石城拾遺利隆公至干難波之師於是依東照神君盛徳尊君之命止留干武江弟美作守元信師由之之兵代豫勤軍役翌々年之軍賜暇目勤戦功獲三百餘級利隆公感甚矣紙縑須賀蓬庵女以慶長十一年七月十八日生由成干播之姫路元和三年従公之轉封領伯州米子城明年由之辛世由成十三歳羽林光政公賜由之食邑三萬二千石寛永九年又従公之轉遷備前州同十三年以公之命往武江築城壁大献尊君固視之則服折既役畢之後拝謁尊君又賜衣服白金寛永十九年正月綱政公五歳賜干將軍家之肩衣裕由成歩行供舉同二十年後光明院有即位之事干京都上賀儀正保元年光政公備前州於玉井山造誉君之社爲賑吏能終其事公慰問労苦而賜康光刀正保四年於武江免許乗輿慶安二年尊君養公之如女以適一條右府公干洛由成陪従焉寛文八年公感舊功免老退及干歳見賜四墅之輻其言曰汝愛之催茶令慰舊労退従居天城口九年此春爲賀儀出干岡府謁二君既辭正月八日以疾卒干野田屋町之別墅享年七十有一反葬兒島都天城邑櫻山由成在世嘗與聞國政十有一年其餘春君命往東武聘他邦亦數回奥室圀氏之女生三男五女男主計正由貞二男五郎兵衛由有共早世無嗣三男主水由孝方繼家宗世禄嫡女萬適池田佐渡守直長一女百適石州濱田之陪臣岡田竹右衛門元昌一女梶適京都六條東門跡之家臣栗野勝兵衛元好一女夏適池田美作守信成一女熊嫁播州赤穂之陪臣大石權内良昭

海禪寺（天城池田家の菩提寺）

由成の子供のうち熊が赤穂大石良昭に嫁ぐ、と墓誌に記載されている。その子供が良雄で赤穂浪士の大石内蔵助です。

天城陣屋跡（御茶屋跡）は、今は天城中学校・高等学校のグランドとなっており、校門の北から道を隔てて反対側の同校グランドに上った所、学校を見下ろす高台の上に石碑が建てられている。学校の向こう側には天城池田家墓地のある丘陵も見える。天城陣屋は、寛永16（千六百三十九年）年に、一国一城による下津井城廃城に伴い、当時の下津井城 城主で岡山城の家老であった第二代、池田由成がここ天城の地に構えたもので天城池田家と呼ばれた。

天城池田家は、当初三万二千石を領していたが、元禄14（1701）年、当時の第4代領主 池田由勝が、播州赤穂事件の大石良雄の縁戚であったため二千石を減ぜられて3万石となった。

以後第11代領主政和まで続き明治維新を迎える。

天城陣屋は、お茶屋と称していたが、これは幕府を意識していたためであり、実際は陣屋であった。